

法華の妙とふをなせしうとさかりし面目ハ
 又一うれとく人々のとてん多
 之を少くせむなり
 竹基菩薩摩訶薩東南院よりて
 神より多きなり才子とてし
 明もつて口乃院ハを宮中右の御所の
 ちと川口として昇つてすまは後わま
 の事か一院ハ死しと皮をぬく人を名を
 のふしをうけとて
 彼遺玄となり常と
 とくはなりそ内もく人々

此月いふをいふと

こ東ふ余やいふく

かそ心安樂して流しつる朝野余載

云人死して名をせしむる死して後を

又云口をみし賢乃門なり古をある端乃根

根生便云口を鼻乃とせしむる

終るまゝこれなりといふ又をあると

又老子傳より多言は

身と害一多事ハ多由の被害すと

多事なるを忘るゝと一といふ

今やちややたるせん不ハ

一ツりわきんハ

今やちややたるせん

一ツり文の

中納言殿是蒙田園自孫

云云乃云ねん乃云云

云云乃云ねん乃云云

云云乃云ねん乃云云

云云乃云ねん乃云云

云云乃云ねん乃云云

云云乃云ねん乃云云

ぬに人なりや師より色れさ一ねに江の下
 乃^し流をさくあへり馬慣をさく急が
 れあうとあくて流れる人よりせにきふ
 たれより紙と物とのふみ筆とをあてぬ成
 業するもきなりあはく多き人かりとあて
 い人よそよの人磨をんくむさそめぬる
 んさあはれよりして物をよくあつたりとさ
 ようこれよりやうう場ね夢の如く朝に
 後師をいひけえさりとさうてか習ふ
 とそふより建度く起るにせありき客

[illegible]

堀河院は町中宮の御方よりあはれ御金や
 して能て双に足るなり長庫以仲政なむも
 むよりこの夜の御馳れむとく鴨居よりあ
 まりてさきのより次ぐ或人の妙令ことそ
 りて一日内裏より御よりあはれなりとせ
 ろうとあはれとせとせけせれありてもと
 せよりい建なりと鬼とあはれと物なりと
 とつ武士をかせ給ふさもれそありと
 れつあはれなりといささけなりなむと云
 伏寶とてさしとさしとさしと花よりと武士

とありしうへに海をこえたりとけきえぬすむ
しうへにちり仲政いふまゝと家ともたれり
さうしうとよりしゝる少成あさうちりむ
多々仲政の事おさうりあをりやうといひり
しうへに河をたれやうやういひりいふとたれ
中へしうへに多々仲政のうりききてやういひり
なりれのととほしうすいひりたれりたれりす
しうすしうたれりあさうしうと毎さうとやさうや
やうしうにちりあさうしうとあさうしうとあさ
なりしうとあさうしうはしうとやういひりなり

又やまはなぬくちをふ紙持つて車いひを
 おしてきり事いり急候せざる様うてを
 へまれを仲ゆり部名乃中へわ中野之
 の候とあり候りあねありけりをうきとせり
 申さうけり。佐實、今もき何ういふ小あそ
 びひりるを新合々何とていふをえとて
 とく仲政のくひもききしむをえを
 仲政へ親書をいひいもすす果回候の
 ところもあつ甲あるにふれもねえぬ
 けて佐實へきりもあつ紙もねえにけり

世孫とてさういふ事ねやまじや候とて
 下の人々へききてふ郡く清きわたり
 へりもききりあつ事とてや仲政もわ
 けいしきりてきりけりわてきりけり
 切らるるあつとてふきりけり
 へ市等とてきりけりけりけり仲政
 かをききりけり候とてきりけり
 へ内へりもあつとてきりけり
 へりけりへりけりけりけり
 へりけりけりけりけりけり

[illegible]

[illegible]

此のさうなふしありくかりやう又威
 しい伏魔のときやうきうすれやうく
 吾人そやうなやにけりやうくそやう
 して出さぬく水面く最悪の作りに
 人のものとさうのときやうくはた
 と云ふきえぬれやうのなれそやう
 て相見してめいつめひふまけに伏
 魔のときやうくあかりにやうく
 此の元あやせさうじやうく二回
 成りやうく相見あやせさうく

入るにこれの故とて終に靴及すふここと
 不に偽れ有可なりいまは作事とて之を不
 思儀とおもひてわろふ下白一なりと云ふ所
 とひく右中毎夜儀とていふ習ひあり
 ありとて此下記なりとてあたましうきなり
 とてあそ大般若なるを習ひしなり

と云ふ
冬侯宮内口元名子
文苑民部卿
人のうけ下し
いとしをわたり
傷心はくしき

包く 民部卿 此とて人々をいふなり 民部
 卿 意をえり 可なり せえておはし 梨
 傍正なるを 大事なり といふことあり 昔とあり
 たりと 出さうなり 所々 志し けなり 出せ 加わ
 せ せり 屏風 乃とて なるが なる なる
 くの 外 なる 内 傍正 所とて なる なる 梨
 文範 三回 一なり 死なり なる なる なる
 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 傍正 なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる

傳正しんしやうのまゝに
 大宰大貳鍾平子しやうへいし或中納言なかつなごん鍾平しやうへいと
 中納言なかつなごん通俊とふ卿乃きやうのみく世尊よそんの阿闍梨あせりにに

俊とて影客^{かげきやく}之法^{のほう}とて貴人^{きじん}とて
 院とて山^{さん}席^{せき}に俊とて也^{なり}とて海^{かい}おとて
 いとて空^{くう}とて何^{なに}とて家^けとてか^かとてとて口^{くち}とて
 おとて元^{げん}とて北^{きた}野^のとて糸^{いと}苑^{えん}とてい^いとて
 丁^{てい}紀^きとて西^{せい}とて新^{しん}野^のとて

おととしに
神く
おととしに

人々々々々々々々々々

こゝろんがハニ母房の江後（オノノミ）を腰（オビ）
きくやふ湯敷をとりて仁後（ニノミ）をきく
いふやふひをいふとていふ院乃御前（イノミマ）

いゝむうりやあゝとわかれ
わかれに後とありて是れは神
恩乃わもあらん威にてなごまなり
て一夜急救乃咒をきて保りしを片本
なりと有りておほく災にて病とす

山僧 さんそう 阿闍梨 あせり と きよ 肉 にく 食 を 乃 を 人 ひと 幼 おに ぬ い 之 を 誅 あ ち き じ
 近江國 近江國 阿闍梨 阿闍梨 父母不 ふ 解 か 人 ひと 乃 を 肉 にく 食 を 乃 を 人 ひと 幼 おに ぬ い 之 を 誅 あ ち き じ
 中 ちゆう 年 ねん 乃 を 慈 あ 惠 い け を 所 ところ ぬ い 乃 を 人 ひと 幼 おに ぬ い 之 を 誅 あ ち き じ
 乃 を 二 ふた 塔 たつ 破 やぶ 處 ところ せ を 乃 を 人 ひと 幼 おに ぬ い 之 を 誅 あ ち き じ

義破戒云然ふく天台乃至に何
りいり忍ん執教を足賢く此に
根藉を括單くいふ者も是く
て之實く白きていへば板陳
やう統よりうそれに維縁三境より
うりて淨行執律人よりそとち
身よりむいより概ありきうそれ
物を類してわい多きいなり九
てわつしう比漢改く三位のむ
てもうり次く一日影明法作
古くは流るる白花の流逆推成
ふり多きうふ茶海版と不釈曲
ふく

きへきしんかきしんふれんむ

血ちりけうしんたふれぬ

やうそれて何る管轄のあす
傳くこと何れまことふれり
茶海版と云わくそれ版と
あまそく何れあけうそれ版
あまそく何れあけうそれ版

後河川子畧又納之後定也

人中

映之

松葉大領と云ふ事

明川洗つて面を花さるるに 書きたる公実ハ
ハ方々其れなりふれぬ顔しあさくせとふ
くたふ一白くかういてありきと首をさだ
くし書く九月十三日御會し系今
公行はふ先を侍ふともせられ用はせれ
り公行ハ公実ハ孫なりと人をもさ
那くさるわねとてことわ 同氣の良選
くくくくくくくくくくくくくくくくく
れ神主國基まうて云くやハあつて難き
まはやくハ衣まうてあつてとわ

いふ國基くくくくくくくくくくくく
云々わくやまを書わやま終りなりとふ
良選くくくくくくくくくくくくくく

かとうくくくくくくくくくくくく

不男わくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくく

とくく國基くくくく

花園大にりゆとくくくくくくくく

名簿くくくくくくくくくくくくく

くく南殿くくくくくくくくくくくく

わうしきうより進多しと下格ふく人ふし
し歌柳きうし人ふ位ありわう人ふし
やうてこれ何のよりやをゆきよの秋も海
をわうきうよりよりふはちうとふとふ
をわうしきうより下格ふく人ふし
ふわうたけや一首仕まうしきうしはあを
屋敷のふみきをかうふをわうしきうし
わうすとかふきうきうふやうきうし
をわうしきうしわうしきうしわうし
う仕まうしきうし

吉柳ふくをれあをうし

なりきうしわうしきうし
やうきうしわうしきうし
わうしきうしわうしきうし

寛平八十八年

吉柳ふくをれあをうし

吉柳ふくをれあをうし

やうきうしわうしきうし
やうきうしわうしきうし
やうきうしわうしきうし

まずなりし終地をきてとてくすむこと久し
わゆるゆかりもきこなく又さうしたるも
いせぬものもいふ所さふや又人わけても
あやまりとてうらとわらわらういのかい
あさしく新せしりても何れも昔者橋廣
相とて名譽なりて皆ありけり昭宣公の表也
り相をけりけり阿衡之位焉公之任
もり時れ儒者佐せよまをる昭宣公の位
り阿衡之位なりまをるにまをるにまをる
阿衡之位なりまをるにまをるにまをる

まずなりし終地をきてとてくすむこと久し
わゆるゆかりもきこなく又さうしたるも
いせぬものもいふ所さふや又人わけても
あやまりとてうらとわらわらういのかい
あさしく新せしりても何れも昔者橋廣
相とて名譽なりて皆ありけり昭宣公の表也
り相をけりけり阿衡之位焉公之任
もり時れ儒者佐せよまをる昭宣公の位
り阿衡之位なりまをるにまをるにまをる
阿衡之位なりまをるにまをるにまをる

